

## サステナビリティ担当役員メッセージ

# 豊かな未来に続く サステナブルな社会の実現を目指します。

大塚グループは、“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”の企業理念のもと、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、自らの持続的な成長と、健康でサステナブルな社会の実現を目指しています。

地球温暖化による気候変動は、国際社会における最優先の課題の一つとされており、企業には持続可能な未来に向けた環境課題の解決、特に脱炭素化の推進や資源循環の促進に加え、水資源の保全や、生物多様性の維持など、多角的な視点からの積極的な対応が求められています。大塚グループでは、事業活動におけるすべての環境負荷をゼロにすることを目指す2050年環境ビジョン「ネットゼロ」を掲げ、4つの環境重要項目として「カーボンニュートラル」「サーキュラーエコノミー」「ウォーターニュートラル」「バイオダイバーシティ」を定め、第4次中期経営計画に基づく5カ年目標の改定を2024年6月に実施しました。新たな中期目標のもと、目標達成に向けたロードマップを策定し、施策を推進することで、グループ丸となって持続的な進化を遂げるべく取り組みを進めていきます。

カーボンニュートラルでは、国内では大塚製薬工場 釧路工場に続き、大塚製薬 徳島ワジキ工場が位置する徳島県那賀町に2基目となるメガソーラーを導入しました。これにより再生可能エネルギーのさらなる創出を進めるとともに、エネルギー利用効率の最大化を図るコージェネレーションシステムが稼働し、大塚グループの各工場へのエネルギー供給を開始しています。また海外においても環境負荷の高いアジア地域を中心に、太陽光発電設備やCO<sub>2</sub>フリー電力の導入を積極的に行っています。

サーキュラーエコノミー、ウォーターニュートラルにおける活動は、限りある資源を循環利用し、環境への影響を最小限に抑え、循環型社会の実現に貢献する取り組みと位置づけています。特に近年注目されているプラスチックへの課題に対しては、「大塚グループ プラスチックステートメント」のもと、グローバルでPETボトルにおけるリサイクル原料、および植物由来原料の使用割合を2030年までに100%とすることを目指しています。これまでに「ポカリスエット」をはじめとする製品にリサイクルPET樹脂を使用したPETボトルを展開しており、「OS-1」や「ジャワティ」においては、100%リサイクルPETボトルの導入を開始しています。また水資源に対する持続可能なアプローチとしては、水の管理基準を定めた「水資源管理ガイドライン」を策定し、取水から排水に至るまでの水の保全を継続的に進めています。

バイオダイバーシティは、自然環境と人間社会の持続可能な発展を支える重要な基盤であることから、新たに当社グループの優先課題として位置づけました。まずはパーム油や紙などの原材料について、持続可能性に配慮した認証制度を積極的に活用し、事業活動における自然への依存と影響を軽減する取り組みを推進していきます。

私たちを取り巻く環境課題には相互関連性があり、総合的に解決していかなければなりません。大塚グループは引き続きグループ各社で協働し、当社グループならではの取り組みを推進することで、人と地球が豊かに共生し続ける社会の実現を目指してまいります。

大塚ホールディングス株式会社  
代表取締役副社長

松尾 嘉朗

